2022年度
埼玉地区主題
主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区
埼玉地区通信

2023年３月５日
発行人
日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会
委員長　小林　眞
さいたま市岩槻区本町４－３－15
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所　（株）シャローム

新年合同礼拝報告

埼玉地区委員会

２０２０年から感染拡大が始まったコロナウイルス。そのため、２０２１年の地区新年合同礼拝は休会。翌年は、もより区毎に行われ、Ｚｏｏｍと併用したもより区もあれば、対面のみで開催したもより区もありました。

では、２０２３年はどうか？ということで、主催の地区委員会では祈りながら何回も検討を重ねました。会場教会にも奉仕者に備えていただき、印刷物も準備し、あとは合同礼拝当日を待つばかりとなりました。ところが、開催日が近づくにつれて、鰻上りに増加する感染者数。しかし主を信じて、合同礼拝を開催しようということになりました。

当日を迎え、礼拝20分前になると、一気に人が入りだしました。消毒と検温に少しばかり列ができ、受付の用紙がお名前でいっぱいになり始めました。85部準備した印刷物は全部なくなり、慌ててプログラムだけを印刷し、教会の備え付けの聖書と讃美歌をお借りする程になりました。３年ぶりに一堂に会しての合同礼拝ということで、１２６名（55教会・伝道所、他教区より２教会）が、主に期待して出席されました。ひと席おきに座る礼拝堂の椅子は満席になり、３階席もほぼ満席。礼拝堂前のホールにも、椅子を出してお座りいただくまでになりました。

東野尚志先生

子どもへの説教は、東所沢教会の指方周平先生でした。コリントの信徒への手紙第一　12章12～26節から、イエス様は一人ひとりを愛して御前にお招きくださっていること。誰もがかけがえのない存在であることを、語られました。

この度の合同礼拝では、滝野川教会の東野尚志（ひさし）先生を説教者としてお招きしました。東野先生は以前、聖学院教会の主任担任教師として地区内でのお交わりを頂き、関東教区では、教区議長の重責を負ってくださいました。

東野先生は、「あちこちの教会を巡り、聖書も幾つかの訳を使いました。それぞれの訳に味わいがあります。健康も富もすべて、慈しみに満ちた神の御手にあります。ハイデルベルク信仰問答にあるのですが、人生の逆境において、神が拠り所になっているでしょうか。神に向かって罪を告白し、祈ることは大切なのです」と語られました。

説教を通して、イエスさまから御言葉を頂き、この一年、地区内の58の教会・伝道所の上に、豊かなお恵みが注がれるように。聖霊が私たちを一つにしてくださるように、と祈っていこうと思わされました。

帰り際に、ご年配の方が言われました。「20数年振りに大宮教会にきて、新年合同礼拝に出席しました。コロナだからどうしようかと思ったけれど、今日語られる説教は今日しか聞くことができない。コロナ禍で教えられたことは、今できることを今しよう、ということ。今日は出席して良かった」と。今頂く主からの恵みをしっかりと握り、今年も主の栄光のために前に向かって歩みゆく埼玉地区であるようにと、祈り願います。

東野尚志先生を始め、ご奉仕の皆さま、会場教会の熊江秀一先生と大宮教会の皆さまに感謝を申し上げます。主の祝福がありますように。

（地区書記・町田さとみ）

たね

アドヴェントに入り、この一年を振り返ってみると、クリスマスを迎える喜びとは反対に暗闇の中に追いやられる心境になってしまう。いつ収束するかわからないコロナ感染、ロシアのウクライナ侵攻と戦争、中国―台湾問題、地球規模の異常気象、など暗い話題が尽きない。

唯一明るい話題と言えば、ワールドカップサッカーにおいて日本選手の活躍があった。身近では、コロナ感染者数が高止まりの状態にある中で、少しずつではあるが、今までの日常を取り戻すまでになってきた。

そのような歩みの中で、私たちは社会の平和、そして日本および世界の平和を願ってやまない。

また、悲しみの中にある人、様々な問題を抱えて苦しんでいる人、最愛の人を失った人、突然の病で入院を余儀なくされた人、両親を亡くした子ども達、災害で全てを失った人、東日本大震災で故郷を失った人たち…。悲しみを乗り越える力が主から与えられるように、祈り続けていきたい。（２０２２年待降節にあたり書いた）

（本田　彰）

講演会の報告

アーモンドの会

小川教会　関根　康彦

9月23日（金）に、第27回アーモンドの会が埼玉和光教会を主会場として、他に2箇所（久喜復活伝道所、所沢みくに教会）をZoomで繋いで、開催されました。出席者は、53名でした（リモートで2会場及びZoomでの個人参加者を含みます）。

開会礼拝は、埼玉和光教会の岩河敏宏牧師に説教をしていただきました。

主題講演には講師に㈱ヨベル代表、安田正人兄（東所沢教会）をお迎えし、主題『高次脳機能障害を負う絵本作家ソラさんの出版に携わって〜最近のキリスト教出版事情〜』と題して講演をしていただきました。

安田正人兄

講演の途中で、絵本作家ソラさんにお話と絵本「起き上がり小法師」の朗読をしていただきました。ソラさんのお話の中で印象に残った言葉があります。「目には見えにくい『高次脳機能障害』について、知って欲しい、理解して欲しい、そんな思いと小さな願いに、こんな小さな私にさえも、生かされていることに、意味があり使命が与えられている…と、多くの方々に気づかせてくださいました」。私たちは教会の中でこのような障害に気を配っているだろうかと？新たな気付きを与えられました。委員会では11月の研修会で『高次脳機能障害』について、さらに深く学びました。

講演終了後、分団に分かれ、分かち合いの時をもちました。コロナ禍の中、感染を心配しながらも、感染防止対策を整えて、懇談会を開催することができましたことを主に感謝します。

（障教懇委員）

教会音楽講習会

上尾合同教会　中村　裕子

教会音楽委員会では、コロナ感染拡大に伴い２０２０年度、２０２１年度は対面での講習会は見送りましたが、今年度は、感染対策を徹底しつつ対面での講習会開催をめざして、祈りをもって準備を進めました。

２０１９年度から続く主題「『讃美歌21』再発見」の第３弾として奏楽者、奏楽志望者向けに「『讃美歌21』伴奏法」をテーマに飯靖子（いいせいこ）先生（霊南坂教会オルガニスト、聖歌隊指揮者）をお招きし、10月1日、埼玉新生教会において開催。奏楽者の心構えとオルガン、ピアノの実技を学びました。

飯先生は「まず、礼拝賛美は神さまへの応答なので、それにふさわしい歌になるよう奏楽者は会衆をリードすることが求められ、そのためには歌詞をよく読むなど十分な準備が大切」と話されました。また、長く続けるためには年齢が高くなる程、練習量が多く必要とのことでした。

前もって、飯先生から課題として与えられた『讃美歌21』の２４５・２４７・２５６・２６５・２６８・２６９のクリスマスの6曲を担当者が弾き、曲ごとにテンポや音色について教示がありました。また息継ぎのタイミングについては、奏楽者も声には出さなくても会衆と一緒に歌うことを勧められました。

教会で礼拝奏楽を担う者として、難しい課題もありますが、飯先生は様々な質問にも明確に答えてくださいました。講習会全体を通して、出席した方々の講習会に対する意識の高さが伝わり、また6曲とも一節ずつですが出席者33名（15教会）で賛美もでき感謝の時となりました。

（教会音楽委員会委員）

CSせいと大会

東所沢教会　指方　周平

10月10日（月）午後、武蔵丘陵森林公園を会場にCSせいと大会が開催されました。当日、朝はあいにくの小雨模様でしたが、3年ぶりのせいと大会に13教会・伝道所から73名が集まりました。開会礼拝では疋田義也先生（本庄教会）がマタイによる福音書13章1〜9節「種を蒔く人」のたとえより「かみさまはあきらめない」と聖書の御言葉を取り次いでくださいました。また竹内真理先生（深谷西島教会）のリードで手話を交えて「花も」を賛美しました。

礼拝後は参加教会・伝道所による自己紹介タイム。「初雁教会のはつかりは何に由来するか（答：初雁城）」「愛泉教会のキュックリヒ先生はどこの国からこられた方か（答：ドイツ）」「所沢みくに教会の創立記念日はいつか（答：10月11日（日）」など、続々とご当地クイズが出されました。続くレクリエーションタイムでは接触を回避したゼスチャーゲーム、「だるまさんがころんだ」が行

われ、皆で楽しいひと時を共有しました。
　３年ぶりに開催されたＣＳせいと大会は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として昼食を済ませてから現地集合。２時間の短縮プログラムとしましたが、主イエスの御名のもとに集められた仲間たちが一緒にいるという事実が、それだけで、なんという恵み、なんという喜びなのかを改めて示される機会ともなりました。
　思いを寄せ祈りを合わせてくださった皆様、ありがとうございました。教育委員会では、祈りと力を合わせてくださる委員を求めています。ご関心ある方はぜひ教育委員会（指方委員長・東所沢教会）までお問い合わせください。

（教育委員会委員長）

伝道協力協議会の恵み

町田さとみ

コロナ禍のこの2年余は「人が集まってはいけないご時世に、教会に来てくださいと誘うことはできない」という声が聞かれます。そのような時だからこそ、教会の現状を聞き、伝道を考えよう、と行った地区委員会主催の伝道協力協議会でした。以前は「小規模教会伝道所・伝道懇談会」と呼ばれていた集会です。
　10月23日（日）、午後3時～5時30分まで、初雁教会を会場として行ないました。出席者は、14教会伝道所から18人でした。
　先ずは栗原清先生（武蔵豊岡教会）より、開会説教を頂きました。「日本基督教団信仰告白を語り、告白からブレない説教を語り続けること。その中で、聖霊が説教を用いて、救われる人が起こされる」と、励ましの説教を伺いました。その後、加須教会の舟生康雄先生と、飯能教会の木村光寿先生から発題を受けました。舟生先生からは、「コロナ禍で教会の集会や食事の交わりも中止してきた。今は次第に回復しつつあり、今年度は伝道集会を行う」とコロナ禍の歩みを振り返り、現状を報告頂きました。次に木村先生が、日本人の真面目な気質や働き方、家族の信頼度などの統計を出して「今、伝道することの大切さ」を語られました。
　参加者からの教会状況を伺った後、小林眞地区委員長から閉会の言葉を頂きました。「イエスさまがなさったこと」は、今日でいう福音伝道、学校、病院の業。イエスさまの業をコロナ禍であっても、今日の教会も行っていこう、とのメッセージに、参加者は大変励まされました。栄光在主。

鴻巣教会・付属鴻巣英和こども園献堂式報告

教会が建った！
鴻巣教会・鴻巣英和こども園

川染　三郎

11月20日（日）、待ちに待った鴻巣教会・付属鴻巣英和こども園の献堂式を行いました。待降節を翌週に控えた主日の午後にもかかわらず、多くの方々、卒園生（といっても、もう大人になっている人もいます）が献堂式に出席くださいました。埼玉地区のみならず、卒園生にも、地域にも愛され、祈られてきた教会、幼稚園であることを感謝いたします。
　２０２０年から始まった建築は、当初２０２１年３月には完成する予定でしたが、苦難の連続でした。設計の不備に加え、コロナの影響により木材の調達が思うようにいかず、完成までの道のりは実に長いものでした。こうして、ようやく２０２２年10月に完成し、鴻巣教会の新会堂が建ち、「鴻巣英和こども園」として発足することができました。教会・こども園の内外の方々に覚えられ、多くのお祈りとご支援、お励ましをいただき、感謝いたします。
　当園は、建築前は定員35名の小規模幼稚園で、廃園の噂もありましたが、先生方の努力と保育内容が高く評価されました。その働きが鴻巣市に認められ、宗教法人のまま公的補助金１億円を受けることが出来ました。更に、銀行も地域に貢献しうるこども園と認めて、１億円の融資を引き受けてくれました。こうして建て上げられた礼拝堂であり、園舎であります。全ては神様の御業であり、憐みであることを思い、ただただ感謝です。なお引き続き、お祈り頂けましたら幸いです。

追悼　小海寅之助先生を偲んで

越谷教会　石橋　秀雄

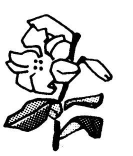
小海寅之助牧師は、大宮新生教会（現埼玉新生教会）で信仰者として育てられその後、大宮教会で訓練を受けて、献身して東京神学大学に入学されました。卒業後、小海牧師は曳舟教会、上尾伝道所を経て上尾合同教会に赴任。その頃、私はＫＫＳの活動でしばしば上尾合同教会を訪れ、親しく同教会の高校生たちと交流しました。

上尾合同教会に行くことが楽しみで仕方がないという高校生、青年時代に、小海先生のご指導を受けました。小海先生は上尾合同教会牧師を経て越谷教会に赴任、越谷教会では、第19代牧師として１９６８年～１９８１年まで堅実な教会形成をされました。

小海先生は、１９７７年に現在の会堂建築・幼稚園園舎建築事業を進められました。１００年はもっという立派な会堂です。

当時、この建設事業のために越谷教会の高校生たちが早天祈祷会を行いました。この高校生の中から献身者が出、さらにその後、長老として越谷教会に仕える信仰者となりました。小海牧師は牧会伝道力が高く越谷教会の伝道を進めてくださいました。小海牧師が越谷教会に赴任された時代は日米安保闘争、大学紛争、そして、教会解体が叫ばれた時代です。

埼玉地区でもこの影響を受けた青年たちが教会「伝道粉砕」を叫んだ。このような時代の中で越谷教会では「越谷教会において長老教会、改革派教会の伝統を受け継ぎ「御言葉と聖餐」によって『日々新しく改革されていく教会の形成』に祈りと力を尽くされました。



追悼　久保島泰先生を偲んで

東大宮教会信徒　中村　信子

２０１４年4月、東大宮教会の牧師として久保島泰・理恵両教師が赴任されました。泰先生の第一回目の礼拝で司式当番を私が担当させていただいたことを覚えています。当教会の新しい歩みの導きと守りを、神さまに祈らずにはいられませんでした。

あの日から、久保島牧師御夫妻が、教会や、教会学校のために多大なお働きをしてくださり、深く感謝致します。教会員の平均年齢が上がり、若い人が少なくなる中、先生御夫妻が一番の若手といっても良い程でした。教会内外での牧師としてのお働きが忙しくなってきた頃、ある長老の方から、泰牧師が近頃めっきり痩せられて心配だと伺いました。その後まもなくの発病、治療が始まりました。骨随移植により一時は快方に向かわれ、講壇に戻ることもでき、その力強い説教を再び伺うことができたことは、何より嬉しいことでした。しかし、新型コロナウイルスの蔓延により、教会の活動も制約を受けざるを得ない中、泰牧師も入退院を繰り返すこととなりました。

私たちよりも若い泰牧師が重い病を得られ、皆がもう一度講壇への復帰をと願っていましたが、昨年8月、神さまの御許に召されました。私は御心を受け止めきれず、途方にくれるばかりでしたが、神さまが、もう一人の牧師を私たちに残してくださったことを思います。主任牧師不在の教会を支え、コロナ禍に、私達の歩みを導いてくださったのは理恵牧師でした。誠に感謝のほかはありません。これからの教会の歩みも、見捨てられることなく、神さまの御愛の内に、教会員一人一人が支えられ、力づけられて歩んでゆくことができると確信しております。

追悼　内田武士先生を偲んで

安行教会　田中かおる

２０２２年9月27日、内田武士先生（隠退教師）が天に召されました。91年の地上でのご生涯でした。

内田先生は、１９９５年4月、東京神学大学をご卒業後、群馬県館林教会に主任担任教師として着任、10年の堅実な牧会を経て２００５年3月に隠退なさいました。実は、２０００年3月に突然のめまいにおそわれ緊急入院（突発性赤芽球労・いわゆる貧血）、以後、体調が万全でない中、懸命の牧会をお続けになっての隠退だったのです。隠退後は鴻巣のご自宅に戻られ、上尾合同教会にご出席。翌年の5月に病気治療中であった妻の順子姉が天に召され、しばらくは憔悴しきっておられました。ですが、上尾合同

教会で協力牧師としての働きを担うようになり、当時の主任牧師、秋山徹牧師を助けながら多岐にわたるご奉仕を担う内に、元気を取り戻されました。同時に、他教会での説教応援や聖餐式執行のご奉仕をも担うようになり、多くの教会が支えられました。

安行教会もその一つです。２００７年４月より、月１回の説教を担っていただき、定期的なご奉仕は２０１９年度末まで続きました。内田牧師の主へのゆるぎない信頼に裏付けられた安定感は、教会を大いに励ましてくださいました。このようにして多くの教会が内田先生に支えられてきたことを思います。

内田先生は、60歳にして神学校に入学なさったのですが、若いクラスメートたちとも気さくに交わり、クラスの安心の基地であられました。筆者もお交わりをいただいた一人です。当時から主へのゆるぎない信仰が、皆を励ましてくださったことを思い起こします。終末の再会を祈りつつ…。

追悼　風間直次郎先生を偲んで

七里教会　佐々木佐余子

風間直次郎先生は、１９４０年に東京都文京区でお生まれになりました。仕事先の小石川白山教会で、ある牧師先生に声を掛けられ、求道の生活に入られました。

献身の決意を固められ、日本聖書神学校に導かれて入学。卒業後は、岡山の赤磐教会、三石教会、和気教会を牧会し、その後上京。さいたま市の見沼区で家を購入し、開拓伝道を始めました。

その後、七里伝道所を１９８７年に設立し、親教会の小石川白山教会の祈りと支援とによって会堂建築を着工しました。新会堂を与えられ、少しずつ教勢も伸び、２００２年に第二種教会の認可を受けて七里教会となりました。

２０１４年３月に隠退教師となられ、２０２３年１月、82歳で召されました。

先生は心身ともに弱さを覚えている方々に、温かい眼差しを向けられました。両親に早く先立たれ、親族も寄り付かない兄妹を見守り、援助をしました。とてもユーモア精神があり、礼拝後はよく人を笑わせていました。また、本当のことをはっきり言われる先生でしたが、それは豊かな人生経験から出た言葉ではなかったでしょうか。

隠退される際には、住居を心配しておりました。「お金はないし、どこに住んだらいいのか」と。でも神さまは備えてくださったのです。３人の息子さんたちが手はずを整え、病院に近いところに住まいを購入し、両親を引き取ったのです。

「わたしは戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです」とのパウロの言葉と先生とが重なります。風間先生、長い間お疲れさまでした。

教会紹介

東松山教会

東松山教会　崔長壽（チェ ジャンス）

東松山教会は、１９５６年に創立して、今第９代目の牧師として、私が務めています。私は韓国から派遣された宣教師です。教会周辺には、幼稚園、小学校、中学校、高校があり、教会の前は、学生たちの通学路になっています。教会の塀に、聖書物語の絵を並べてかけて、通りかかる人々に、福音を伝えながら、ここに教会があることを表しています。

最近、教会ホームページを開設して、ネット上でも教会の案内と関連情報を発信するようになりました。コロナ感染症が長引いている中で、いろいろな事情で礼拝に来られない方が増えています。この方々が自宅で礼拝参加ができるように、Ｚｏｏｍを通してライブ礼拝配信を行っています。この礼拝は、録画され、後にも見られるように、ホームページに掲示されます。

東松山教会の重要な課題は、信仰の次の世代を育て上げることです。全教会員中、75歳以上の高齢者が半分以上なので、次世代への信仰の継承は当面の課題です。近くの小中高等学校の児童や生徒を引き寄せるようなCS活動が必要です。同時に、高齢の信徒たちのための牧会も重要です。退職後の生活が長い高齢の信徒たちは、教会の尊い財産であるからです。神の国のため、思う存分働きたいと願っている信徒たちに、教会は、働きの場を提供するために努めています。この二つの課題は、他の教会も抱えている共通の課題であると思います。この共通の目標のため、地域の教会が連帯して、共に祈り、励まし合い、共に働くことによって、神の国は、絶えず前進すると信じます。

2022年秋の伝道集会「ゴスペル＆トーク」

地区委員会報告

２０２２年度第４回委員会

日時　９月６日㈫
会場　大宮教会、出席　９人

●主な報告
一．地区内の教会・教師の報告
◎問安報告：埼玉中国語伝道所
◎辞任
・深谷教会　保母光彦（主）
・深谷教会　法亢聖親（担）
◎就任
・深谷教会　法亢聖親（主）
◎隠退
・深谷教会　保母光彦
◎逝去
・小海寅之助（隠）８月12日、96歳。
・久保島泰　東大宮教会(正)(担)８月21日、64歳

●主な協議事項
◎就任式執行予定
・三芳教会（主）渡邊典子（正）
・埼玉新生教会（主）平澤昇（正）
・七里教会（主）佐々木佐余子（正）
一．地区委員会主催集会等に関する件
①伝道協力協議会に関する件
日時：10月23日（日）15時～17時30分
会場：初雁教会
開会説教：栗原清（武蔵豊岡）
発題：舟生康雄（加須）、木村光寿（飯能）、テーマ「小規模教会の伝道報告と今後の伝道」。
以上を可決した。
②新年合同礼拝に関する件（今年度は３区合同での礼拝）
日時：２０２３年１月９日（月）10時30分～12時
会場：大宮教会
説教：東野尚志牧師（滝野川）
司式：本田彰兄（大宮）
その他、地区三役一任とする。
以上、可決した。
二．諸申請に関する件
・加須教会　関東教区負担金減免申請
三．地区内規「慶弔規定」の見直しの件　再継続審議とした。
以上、可決した。

２０２２年度第５回委員会

日時　11月８日（火）
会場　大宮教会、出席　８人

●主な報告
一．地区内の教会・教師の報告
◎問安報告：埼玉中国語伝道所
◎就任式執行
・三芳教会（主）渡邊典子（正）
・埼玉新生教会(主)平澤昇(正)
・七里教会(主)佐々木佐余子(正)

●主な協議事項
一．地区委員会主催集会等に関する件
①新年合同礼拝に関する件
日時：２０２３年１月９日（月）10時30分～12時
会場：大宮教会
奏楽、献金他の奉仕担当を選出した。
以上、可決した。
②地区総合協議会日程、会場等に関する件
日時：２０２３年２月14日（火）19時、会場：大宮教会。
次年度の日程予定等、提出締め切りは１月30日（火）とする。
以上、可決した。
③地区総会日程、会場等に関する件。
日時：２０２３年３月21日（火）９時30分～16時
会場：埼玉和光教会
その他、地区三役一任とする。
以上、可決した。
三．諸申請に関する件
・朝霞教会、白岡菖蒲教会、日野原記念上尾栄光教会：関東教区教会負担金減免申請。
・埼大通り教会：地区伝道援助金申請。
三．地区内規「慶弔規定」の見直しの件
・慶弔の対象とお見舞い金等の規則を、新たに定めた。
以上、可決した。
四．クリスマスプレゼントに関する件
・対象の隠退教師17名を確認した。
以上、可決した。

２０２２年度第６回委員会

日時　１月９日（月）
会場　大宮教会、出席　10人

●主な報告
一．地区内の教会・教師の報告
◎問安報告：埼玉中国語伝道所
◎就任式執行
・越生教会(主)佐藤彰子(正)。
◎地区新年合同礼拝
日時：１月９日（月）10時30分～12時、場所：大宮教会
出席者：地区内55教会伝道所、教区外２教会、１２６名出席、Ｚｏｏｍ配信24箇所。席上献金、11万２４８５円。

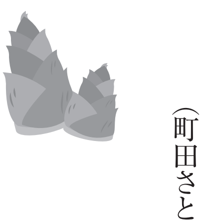
●主な協議事項
一．地区委員会主催集会等に関する件
①地区総会日程、会場等に関する件。
日時：２０２３年３月21日（火）時間は検討中。
会場：聖学院大学（コロナの感染防止のため、埼玉和光教会から聖学院大学へ会場を変更）。
以上、可決した。
二．諸申請に関する件
・行田教会：教区教師家族教育費申請、加須教会：教会教師互助申請、秩父教会・桶川伝道所：教師謝儀互助申請。
久喜復活伝道所：地区伝道支援金。

編集後記

3年ぶりの新年合同礼拝はコロナ禍ではありましたが、多くの出席者が与えられました。交わりの大切さを確認しました。4名の愛する諸先生方への追悼文からは、お一人おひとりのご生涯を辿らせていただきました。

各集会の報告や「地区婦人部だより」では、それぞれに工夫されて集会が実施されている様子が伺えます。主にある交わりの喜びと豊かさが伝わってきます。今号も皆さまのご寄稿を感謝します。

（町田さとみ）



婦人部だより

No.41

婦人部の活動

委員長　鴻野　清美

主の御名を賛美します。
新型コロナ感染が始まって3年が経ちます。聖日礼拝が守れずリモートになった所も少なくありません。愛餐会も中止のままです。昨年は高齢の方の「人生で一番寂しいクリスマスだったね」の言葉に涙がこぼれそうになりました。

ワクチン接種は5回目になりました。接種間隔も5か月から3か月へと短くなりました。

2022年度の活動計画もコロナ禍のため殆ど中止となりました。

埼玉地区婦人部総会は昨年に引き続き書面開催としました。58教会・伝道所の内、47教会より返事をいただきました。

6月に、大宮教会にて関東教区教会婦人会連合の総会に協力しました。2022年は、埼玉地区婦人部が当番教会にあたっております。2023年度は、つくば市で開催される予定です。

アジア学院学生ホームステイは、学院と協議のうえ中止となりました。

毎年10月から11月に開催の「もより婦人研修会」は7ブロック中4ブロックが対面で3ブロックが書面開催で行いました。

ACWCJ（アジア教会婦人会議日本委員会）の一日研修会はYouTube配信されました。

クリスマス献金はほぼ例年どおりお捧げすることができ感謝でした。

2月に関東教区教会婦人会連合隔年研修会が、大宮教会をお借りして対面で開かれました。

2023年「世界祈禱日」については各区の担当教会に準備をしていただきました。NCCからの依頼で台湾の婦人達を覚えて式文に基づいて礼拝と献金を捧げる形式です。

一番の課題は次期委員の選出でした。1区から3人、2区から1人、3区から1人と、今回は5人が一度に交代になります。

「あなたがたを襲った試練で人間として耐えられないようなものはなかったはずです。

神は真実な方です。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

コリントの信徒への
手紙一10章13節

一日も早い収束を願い、以前のような活動が行えますように祈りつつ歩み続けていきたいと思います。今後とも、皆様の御加禱、御協力を宜しく御願いいたします。

婦人部委員会に陪席して

町田さとみ（初雁教会）

今年度一年間、婦人部委員会に陪席をさせていただきき、交わりに加えて頂き感謝をいたします。

地区の教会には婦人会を持たない教会、高齢化している婦人会など、多くの課題があります。「婦人会」という名称が変わろうとも、メンバーが少なくなろうとも、共に教会を愛し、祈る仲間が地区にいる！各教会から、婦人部の集いへの参加をお願いいたします。

埼玉地区婦人部新役員紹介

1区	上尾合同教会	東　治子姉
	大宮教会	川村道子姉
	草加教会	稲垣知子姉
2区	川越教会	佐伯美知子姉
3区	久喜復活伝道所	杉山和美姉

―― 2023年度もより婦人研修会担当教会 ――

	2022年度	2023年度
第1ブロック	西川口教会	安行教会
第2ブロック	浦和東教会	大宮教会
第3ブロック	和戸教会	鴻巣教会
第4ブロック	北本教会	北本教会
第5ブロック	毛呂教会	東松山教会
第6ブロック	所沢みくに教会	初雁教会
第7ブロック	深谷西島教会	行田教会

もより婦人会研修会

「もより婦人研修会」はブロック毎に10月～11月にかけて担当教会のご協力をいただき行うことが出来ました。

◇第1ブロック

西川口教会担当

研修会報告

沖元　道子

＊講師　島静江牧師
＊「交差点に立つ信仰」
使徒言行録16章1節～6節

新型コロナ第7波が過ぎ、規制緩和の中、対面での集会に不安があり、皆さんに確認し、希望が多かったので開催。34名（5教会1伝道所）の参加。

私達の人生は度々決断を迫られますが、導き支えてくださっている聖霊によって、信じて歩む事が出来ます。対面研修会を実施し、笑顔があふれ、親密さがより増した様でした。

◇第2ブロック

浦和東教会担当

志を貫く

福井　官奈

人数制限をしての開催でしたが、会場は28名収容可能で、参加者は15名でしたから、人数制限不要だったのかな？と思います。説教は永井牧師、講演は小田哲朗神学生でした。

講演は示唆に富み困難や不安に満ちたこの世でキリスト者はどう歩むべきか考えさせられました。講演後、講師に質問する皆さんの様子から自らの使命を真摯に模索しておられることが分かりました。

各教会は高齢化やコロナの影響で従来の活動が困難な実情を抱えていますが、主に従って歩むという志を忘れないために、社会の問題に関心を持ち続けることが大切だと思いました。

◇第3ブロック

和戸教会担当

もより婦人研修会

吉川喜久美

11月22日（火）コロナ禍ではあったのですが3年振りに当教会で開く事が出来ました。9教会で40名の参加があり開会礼拝は佐藤さゆり牧師に「神に従う」題で説教をしていただきました。その後「聖霊に導かれ、神の召しに応える」の主題より、講演「キリストの道に生きる」の題で佐藤進牧師に講演をしていただきました。良き学びをいたしました。コロナ禍で午前中で終わりましたが、各教会の人と共に良き恵みのひとときでした。感謝を申しあげます。

◇第4ブロック

北本教会担当

もより婦人研修会を終えて

鴻野　清美

昨年同様、書面開催にて各教会にて開催しました。

開会礼拝は櫻井義也教師の放蕩息子の帰郷。馴染みのある聖書箇所のため、読み進むに連れて父の愛、迷惑を掛けても帰るのは父の所しか無かった放蕩息子。父や兄の想いが伝わり恵みのひと時でした。

講演は阿部洋治牧師。使徒言行録より、「心に傷を背負った一人旅の先に」と題して、聖書の疑問点の説き明かし。本来ならば教会に集まって対面で行いたいと思いました。

長引くコロナ禍を考慮し、来年こそ対面で出来ますように祈りを合わせました。

◇第5ブロック

毛呂教会担当

聖霊が降る

藤波　陽子

11月9日に澁谷弘祐牧師により礼拝説教と講演が行われ、深いお教えを頂きました。私達は神様に「あなたに用がある」と呼び出され、その為に必要な聖霊を与えられて「地の果てに至るまで主の証人となるように」と促されています。どんな時も聖霊が共にいてくださることは、何と感謝なことでしょうか。これまでの私の歩みを振り返っても、主の聖霊の導きと助けがあったからこそ、と感謝の思いに満たされます。主に用いて頂ける者になれるようにと祈りつつ、日々を過ごしたいと思います。

◇第6ブロック

所沢みくに教会担当

コロナ禍を経験した教会

中善寺淳子

研修会は書面開催で、説教、講演は、加藤久幸牧師でした。「教会員としての在り方を考えさせられた。席があるのが有り難い。恵みだなあ。コロナ禍は礼拝に出席するのも愛だと聞くが、葛藤あり。今と初代教会を結びつけて下さり分かりやすかった。礼拝と祈祷会が守られ感謝。子どもの礼拝で子どもたちが生き生きしているのが嬉しい」・・・など多くの感想がありました。それに対し加藤牧師より、教会運営はしなやかに、ゆるやかに。萎縮してはならない、やがて、次のステージが待っているとの確かな返答をいただきました。

最後に、再び「聖霊よ、降りて」賛美し、主の祈りを祈って、閉会といたしました。豊かな時を感謝いたします。

◇第7ブロック

深谷西島教会担当

同じ信仰を持って

婦人会の感想として

竹内紹一郎牧師の説教と講演を伺いながら、本当に私たちは唯一の創造主を、同じ信仰を持って仰ぎ見ているという一点で、姉妹なのだという思いを新たにすることができました。そして大きな励ましをいただき感謝の気持ちでいっぱいになりました。

3年振りに持つことが出来た姉妹たちとの交わりは、短時間ではありましたが、和やかで温かく、更なる深い交わりを期待するものとなりました。

会の間中、私たちの真ん中にイエス様がいらしてくださり、導いてくださったこと心から感謝です。来年の行田教会での会が、今から楽しみです。